

ミニマルインターベンション歯科臨床特論

Advanced Course of Minimal Intervention Clinical Dentistry

キーワード

- ① 接着歯学
- ② ミニマルインターベンション
- ③ セルフクリーニング
- ④ バイオミメティクス
- ⑤ トライボロジー

授業概要

最新の接着技法を取り入れたミニマルインターベンションによる歯科臨床は、齶蝕制御から義歯補綴治療まで、幅広い歯科疾患を対象として、必要最小限の処置で患者負担を軽減し、口腔の機能・形態の再構築や修復を行うものである。本講義では、最新の症例報告や、横浜研修センターで実施された臨床症例を題材として供覧し、現行の臨床術式を発展させて、より先進的材料や治療法の開発に向けた臨床研究の立案やデータの収集・分析を行うために必要な能力の向上を目的とする。

授業科目の学修目標

歯科臨床における世界をリードする日本の接着歯学について理論と技術を理解した上で、現行の臨床術式を発展させて、より先進的材料や治療法の開発に向けた臨床的研究の立案やデータの収集・分析を行うために必要な能力を涵養し、国際誌にアクセプトされる原著論文を作成する。

授業計画

- ① トライボロジカル表面解析論 10コマ 井野智
ゼミ形式でトライボロジーによる表面自由エネルギーの理論的解析法について学修する。
- ② バイオミメティクス特論 10コマ 井野智
ゼミ形式で生物の形態と機能を模倣した技術革新について学修する。
- ③ 補綴・修復装置設計に関する変遷 10コマ 井野智
臨床ケースに関する国際的な装置設計基準の変遷と潮流について学修する。

教科書および参考書

- ・ 歯科臨床のエキスパートを目指してーボンディッドレストレーションー, 山崎長郎監修, 医歯薬出版.
- ・ 接着ブリッジのガイドライン, 社団法人日本補綴歯科学会.
- ・ 接着歯学 (第2版), 日本接着歯学会編, 医歯薬出版.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

ミニマルインターベンション歯科臨床特論では一般工業回で用いられる表面加工技術と接着歯学分野で発表された関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① トライボロジカル表面解析論の意義を理解し、表面自由エネルギーとの関係について説明できる。
- ② バイオミメティクスを理解し、これを応用した技術革新について説明できる。
- ③ 補綴・修復装置設計基準の変遷について、国際的潮流を理解し、説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
10%	0%	30%	30%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・ 試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回10%
- ・ レポートは、授業計画3項目（トライボロジカル表面解析論、バイオミメティクス特論、補綴・修復装置設計に関する変遷）について課題を提出する。10%×3回=30%
- ・ 成果発表は、講座内での研究発表会にてプレゼンテーションを行い判定する。15%×2回=30%
- ・ 口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

ミニマルインターベンション歯科臨床特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、補綴・修復装置設計基準の変遷の理解に関しては100%を求める。